

化学物質等安全データシート

【製造者及び会社情報】

会社名	株式会社 東洋化学商会		
住所	東京都江東区亀戸9丁目37番1号	緊急連絡先	本社開発部
担当者	品質管理課 上田 博久	電話番号	03-3685-4351
電話番号	03-3685-4351	作成	2007年 8月 30日
FAX番号	03-3637-5276	改訂日	2009年 10月 13日
整理番号	1463-1211-01020299		

【製品名】

SGクリーン

【物質の特性】

製品区分 (単一・混合物) : 混合物

内容成分 (化学名又は慣用名)	含有量 [wt%]	化学式	既存化学 物質番号	CAS No	PRTR法 政令番号	安衛法 通知物
①テトラクロロエチレン	50~60%	Cl ₂ C=CCl ₂	(2)-114	127-18-4	262	358
②石油系炭化水素類 (ミネラルスピリット、他)	40~50%	公表なし	公表なし	公表なし	非該当	549

国連分類 : -
国連番号 : -

【危険有害性の分類】

分類名称 : 引火性液体、急性毒性物質。
 危険性 : 引火しやすい液体で、吸入したり皮膚からの体内への吸収により、中枢神経系や血液に影響を及ぼす恐れがある。
 有害性 : 吸入・飲用は不可。高濃度の気体を吸入すると、吐き気、頭痛のような不快感または目眩、錯乱（筋肉の）協調運動失調および意識喪失のような麻酔性の一時的な神経系低下を生じるおそれがある。液体や蒸気に接触すると目、鼻、喉等の呼吸器官や皮膚を刺激し炎症を起こす恐れがある。
 環境影響 : この物質は、動物や植物、鳥類、昆虫、水棲生物、微生物等に何らかの影響を与える可能性がある。この物質は、自然環境や水質系にとって有害であり悪影響を及ぼす可能性がある。

① 危険有害性の要約 テトラクロロエチレン GHS分類

物理化学的危険性 :

火薬類	分類対象外	可燃性・引火性ガス	分類対象外	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外	高圧ガス	分類対象外	引火性液体	区分外
可燃性固体	分類対象外	自己反応性化学品	区分外	自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外	自己発熱性化学品	区分外	水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外	酸化性固体	分類対象外	有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	区分外				

健康に対する有害性

急性毒性 (経口)	区分外	急性毒性 (経皮)	区分5	急性毒性 (吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性 (吸入:蒸気)	区分外	急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	分類対象外 (粉じん)		
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	分類できない (ミスト)		皮膚腐食性・刺激性	区分 1A-1C	
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 2A		呼吸器感受性	分類できない	
皮膚感受性	分類できない	生殖細胞変異原性	区分外	発がん性	区分 1B
生殖毒性	区分 2				
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	区分 1 (神経系、呼吸器、肝臓)				区分 3 (麻酔作用)
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	区分 1 (神経系、肝臓、呼吸器、腎臓)				
吸引性呼吸器有害性	区分 2				

環境に対する有害性 :

水生環境急性有害性 区分 1 水生環境慢性有害性 区分 1

ラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

: 皮膚に接触すると有害のおそれ (経皮)。重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷。強い眼刺激。発がんのおそれ。生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。神経系、呼吸器、肝臓の障害。眠気又はめまいのおそれ。長期又は反復ばく露

による神経系、肝臓、呼吸器、腎臓の障害。飲み込み、気道に侵入すると有害のおそれ。水生生物に非常に強い毒性。長期的影響により水生生物に非常に強い毒性。

注意書き：【安全対策】

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。使用前に取扱説明書入手すること。この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。環境への放出を避けること。

【救急処置】

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。眼に入った場合：水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容器に外せる場合には外して洗うこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。皮膚（又は毛髪）に付着した場合：直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。ばく露又はその懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。飲み込んだ場合は直ちに医師の診断、手当てを受けること。眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】 容器を密閉して換気の良いところで施錠して保管すること。

【廃棄】 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

危険有害性の要約 ミネラルスピリット GHS分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外	可燃性・引火性ガス	分類対象外		
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外	支燃性・酸化性ガス	分類対象外	高圧ガス	分類対象外
引火性液体	区分3	可燃性固体	分類対象外		
自己反応性化学品	分類対象外	自然発火性液体	区分外	自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない	水反応可燃性化学品	分類対象外	酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外	有機過酸化物	分類対象外	金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性（経口）	区分外	急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：気体）	分類対象外	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外	急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	区分2	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分外
呼吸器感作性	分類できない	皮膚感作性	区分外
生殖細胞変異原性	区分外	発がん性	分類できない
生殖毒性	区分外		
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分3（麻酔作用）	区分3（気道刺激性）	
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分2（肝臓、精巣）		
吸引性呼吸器有害性	区分1		

環境に対する有害性

水生環境急性有害性	区分1	水生環境慢性有害性	区分1
-----------	-----	-----------	-----

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：危険

危険有害性情報：

引火性液体及び蒸気。皮膚刺激。眠気及びめまいのおそれ。呼吸器への刺激のおそれ。長期又は反復ばく露による肝臓、精巣の障害のおそれ。飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ。水生生物に非常に強い毒性。長期的影響により水生生物に非常に強い毒性。

注意書き：【安全対策】

熱、火花、裸火のような着火源から遠ざけること。一禁煙。静電的に敏感な物質を積みなおす場合は、容器及び受器を接地、結合すること。防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。火災を発生しない工具を使用すること。適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。容器を密閉しておくこと。環境への放出を避けること。

【救急処置】

飲み込んだ場合、吐かせないこと。皮膚又は毛に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを求めること。気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。漏出物は回収すること。

【保管】 換気の良い所で保管すること。施錠して保管すること。容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

【廃棄】 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

【応急措置】

- 眼に入った場合 : 可能であればコンタクトレンズを外し、すぐに多量の綺麗な流水で15分間以上洗眼して下さい。
- 皮膚に付いた場合 : 汚れた衣類等をすぐに脱がせ、多量の水(ぬるま湯)と石鹸で溶剤の付いた部分を十分に洗い流して下さい。また、溶剤が全身にかかった場合は、風呂やシャワー等で十分に洗い流して下さい。
- 吸入した場合 : 患者を直ちに空気の新鮮な場所へ移して窮屈な衣服部分は緩めて、毛布などで保温して安静にさせて下さい。呼吸停止又は呼吸が弱い場合は人工呼吸を行い、呼吸困難な場合は酸素吸入を行って下さい。
- 飲み込んだ場合 : 患者に意識のある場合は、水かぬるま湯で口を濯ぐ程度でなにも与えないで下さい。意識的に吐かせずに安静にさせて下さい。無理に吐かせると肺に入って化学性肺炎等を起こす危険性があります。尚、患者に意識の無い場合は、口から何も与えないで下さい。
- 以上、いかなる場合に於いても、直ちに医師に連絡して、必ず診断を受けて下さい。

【火災時の措置】

- 初期対応 : 人を直ちに風上の安全な場所へ避難させ、消防署等へ連絡し、火災現場へはむやみに立ち入らせないで下さい。
- 消火方法 : 初期消火を行う場合は、必ず保護眼鏡や空気呼吸器等の安全装備を着用して、風上より作業を行って下さい。災害の拡大要素となる燃料供給源を断ち、移動可能な可燃物は速やかに安全な場所へ移動させて下さい。移動不可能な場合、火災に曝されている物の周辺及び容器等に散水して冷却する事は有効です。(延焼防止)
- 消火剤 : 但し、消火を目的とした水の使用は、危険性を増すので絶対に行わないで下さい。消火を行う場合には、専用の消火剤や消火設備を用いて下さい。
粉末消火剤、泡消火剤、炭酸ガス、ハロゲン化合物など

【漏出時の措置】

: 警戒荷先を配備し、漏出液付近の着火源(裸火、火花、高温熱源など)を取り除き、風下の人を退避させて下さい。揮発性液体の蒸気が発生するので、特に屋内では窓を開けるなどして換気を十分に行なって下さい。もし、蒸気発生が多い場合には、噴霧注水等で冷却し蒸気発生を抑制して下さい。漏出液は、砂や不活性吸収剤、ウェス等に吸収させて、密閉式の容器に可能な限り回収して安全な場所へ移して下さい。多量に流出した場合には、土砂やオイルフェンス等で流れを止め、安全な場所に導いて回収して下さい。回収作業を行う場合には、保護具(特別個人保護具、自給式呼吸器等)を装備、着用して、風上より作業を行って下さい。漏出液を下水や排水口、側溝等へは、決して流さないで下さい。

【取扱い及び保管上の注意】

- 取扱い : 労働安全衛生法、消防法等の関連法規に準拠して作業を行って下さい。必ず保護眼鏡、保護手袋、保護マスク等を着用して、出来る限り皮膚に触れない様に注意して作業して下さい。取扱い後は、手洗い、うがい、鼻孔の洗浄等を十分に行い、衣服等に付着した場合には直ちに着替えて下さい。汚れた衣類等は必ず洗濯してから再着用して下さい。汚れたままの衣類等の再着用はやめて下さい。取扱い作業では、漏溢、飛散などに注意し、蒸気発生を極力抑え、作業環境を管理(許容)濃度以下に保つ様に努めて下さい。
- 貯蔵 : 中身を容器から出し入れする場合には周囲にこぼれない様に十分に注意して下さい。取扱い場所では火気(裸火)、火花やアークが発生する物及び高温熱源など引火の危険性がある物を使用しないで下さい。充填、取出し、取扱い時に、圧縮空気を使用しないで下さい。静電気対策を行い、作業服や作業靴等は通電性の良い物を着用して下さい。容器は密閉式で、破損、腐食、割れ等のない物を使用し、転倒したり、落下したり、衝撃を加えたり、引き擦ったり等、粗暴な取扱いをしないで下さい。指定された材料や物品以外の物とは、絶対に混合しないで下さい。指定された用途以外(特にシンナー遊びなど)には、絶対に使用しないで下さい。保管は出来るだけ涼しく直射日光の当たらない一定の場所を定めて、完全にフタをして保管して下さい。
- 貯蔵場所は、ボイラー等の高温熱源や火気のある所を避けて、通風の良くして換気の良い場所へ貯蔵して下さい。屋内貯蔵所や屋外タンク貯蔵所、地下タンク貯蔵所など消防法に定められた場所へ貯蔵して下さい。強酸や強酸化剤等との混触を避けて隔離保管して下さい。容器は常にフタを上に向けて置き、使用済み容器については一定の場所を定めて集積して下さい。盗難を防止するため、倉庫等には必ず鍵をして保管して下さい。

【曝露防止及び保護措置】

管理濃度と許容濃度

{化学名 :	①テトラクロロエチレン	②石油系混合物 }
許容濃度 : 成分管理濃度	50ppm	規定なし
日本産業衛生学会	50ppm	勧告値なし
ACGIH (TLV) TWA	50ppm	525mg/m3
OSHA (TWA)		

- 設備対策 : 蒸気の発生源や取扱い作業場所には、密閉系設備または局所排気装置を設けて下さい。取扱い作業場所等で使用する電気設備や照明器具類は防爆構造の物を使用し、機器類は全てアースをして下さい。
- 保護具 : [呼吸用] 有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気・酸素呼吸器など
[顔面用] 保護眼鏡(飛散防止型、ゴーグル型)、顔面シールド
[皮膚用] 耐溶剤性保護手袋(ポリウレタン系やラテックス等の材質の物)、不浸透性保護前掛けなど

【物理的及び化学的性質】

- ・外 観 等 : 無色透明液体
- ・臭 気 : 溶剤臭
- ・蒸 気 圧 : データなし
- ・溶 解 度 : [水] 水に溶けにくい
[他] 種々の有機溶剤とは自由に混合する。
- ・引 火 点 : 37.0℃ (タグ密閉式)

・沸点範囲：	121.1℃	・発火点：	データなし
・融点：	-30.1℃以下	・爆発限界：	[下限] 6.3 vol%
・密度：	1.233 g/cm ³ (20℃)		[上限] 33.2 vol%

【危険性情報】

安定性及び反応性

爆発性	：①アルミニウムやマグネシウム等の金属や強塩基、硝酸、酸化剤等と激しく反応して火災や爆発の危険をもたらす。 ②常温で蒸気を発散し、空気と一定の割合で混合すると爆発性混合ガスをつくる。
反応性	：アルミニウム及びその合金等と接触すると反応して自然発火性物質を生成することがある。
安定性	：①水と長時間共存すると分解して塩酸等を生成し、この塩酸が金属と反応して水素を発生し空気と爆発性混合ガスを形成することがある。②通常状態では安定である。長期間保存した場合、製品が劣化する場合があります。
分解生成物	：高温の物体、裸火と接触すると分解、猛毒のホスゲン、塩素ガスを発生する。水分と接触すると徐々に分解し、トリクロロ酢酸、塩酸を生じる。

【有害性情報】

刺激性	：皮膚に繰り返しまたは長時間接触させた後では、特に皮膚炎を起こし得る。皮膚＝ウサギ 500 mg/24時間 軽度 (standard Draize test)。ウサギ 810 mg/24時間 強度 (standard Draize test)。眼＝ウサギ 500 mg/24時間 軽度 (standard Draize test)
感受性	：テトラクロロエチレンに感作されて粘膜炎や湿疹様発疹が起こることが稀にある。
急性毒性	：①経口 ラット LD ₅₀ 2,629mg/kg。マウス LD ₅₀ 8,100mg/kg。吸入 ラット LCL ₀ 4,000ppm(4時間) マウス LCL ₀ 23,000mg/m ³ (2時間)。ラット LC ₅₀ 34,200mg/m ³ (8時間)。マウス LC ₅₀ 5,200ppm(4時間)。 急性テトラクロロエチレン中毒の主な症状は、意識喪失である。急性暴露に伴う主な症状は麻酔作用で、ラットでは6,000ppm・数分間あるいは3,000ppm・数時間で麻酔作用が観察される。ヒトでは300ppm・2時間、600ppm・10分ですれも不快感を覚える。慢性暴露例の報告は少ないが、軽度暴露では頭痛、めまい、無責任な挙動、抑制の喪失、心室性期外収縮などが室原腐れている。身体的活動及びカタコールアミンは心室性不整脈を悪化させる。胸痛、麻痺、筋脱力などにより末梢神経の損傷が示される。母乳中に排泄されたテトラクロロエチレンは、新生児で閉塞性貧血を起こす。②経口毒性 LD ₅₀ (ラット) 5 g/kg 以上 (推定値)
慢性毒性	：動物試験でマウスの肝臓への発がん性を証明する報告があるが、ラットでは有意差は認められなかった。疫学的調査ではヒトに対して発がん性があるとは言えないとの報告がある。
がん原性	：IARC(International Agency for Research on Cancer, 国際ガン研究機関)；2A。日本産業衛生学会：「第2群B」(人間に対しておそらく発がん性があると考えられる物質で、証拠が比較的十分にない物質)。ACGIH：「AS」(実験動物に対してのみ、発がん性がある物質)。NTP：「b」(合理的に発がん性があることが懸念される物質)。大墨反復経口投与実験によれば、マウスに0.4～1.1g/kg/日・5日間/週・78週投与90日観察した場合、肝ガンの発生(40～65%)が非投与群(0～12%)に比べて有意に増加したと報告されている。ラット0.5～0.9g/kg/日・5日間/週・78週投与110週観察した実験では、死亡率が高く評価は差し控えられているが、腫瘍の発生率はマウスの場合ほど高くない。ラットに最高400ppmの濃度で、マウスには最高200ppmの濃度で6時間/日・5日/週・103週反復蒸気暴露した実験では、暴露群のラットに単核細胞性白血病が、マウスには肝細胞ガンが発生した。哺乳動物 (rat, mouse) を用いた長期毒性試験 (吸入投与) の結果から、脾臓及び肝臓に悪性の腫瘍を発生させる。人に対するがん原性については現在確定していないが、長期間曝露された場合、労働者が健康障害を生じる可能性を否定できず、労働者の健康障害の防止に格別の配慮が求められる。(平成7年9月2日基発第569号 労働省労働基準局長通達)。
変異原性	：ラット培養細胞を用いた細胞を形質転換試験で陽性。微生物；サルモネラ菌 (+S9)；陽性。染色体異常；ハムスター (生体外)；陽性。
生殖毒性	：mouse, rat及びウサギの試験で有意な繁殖影響を示さなかった。10～1,000mg/kgの雄雄の試験で、異常の報告はなかった。
催奇形性	：ラット及びマウスを妊娠第6～15日の間300ppmに7時間/日反復暴露した実験では胎仔毒性及び催奇形性はいずれも認められなかった。
その他	：アルコール飲料の使用により有害作用が増大する。吸入、経皮、経口摂取により体内に吸収される事がある。飲み込むと肺に吸収されて化学性肺炎の危険を伴う事がある。

【環境影響情報】

分解性	：難分解性 (BOD 11%)
蓄積性	：オクタノール/水分解係数 (log Pow) = 2.60
魚毒性	：ミジンコ 3時間 半数致死濃度 60ppm ヒメダカ 24時間 半数致死濃度 44ppm
その他	：環境データ：昭和50年度水質で0.00015～0.0095ppm (検出限界0.00006～0.0002ppm)、雨水で0.0002～0.0003ppm (検出限界0.00006～0.0002ppm)、昭和54年度大気で0.02～5ppb (検出限界0.004～0.12ppb)、昭和55年度大気で0.01～1.7ppb (検出限界0.004～0.12ppb)、昭和58年度大気で0.01～1.5ppb (検出限界0.008～0.02ppb)。

【廃棄上の注意】

- ：中身を密閉式の焼却炉で燃やすと爆発の危険性がありますので絶対に焼却しないで下さい。中身を燃やすと有害なガスを発生する恐れがありますので絶対に焼却しないで下さい。中身は、特別管理産業廃棄物に該当するので、産業廃棄物処理法に基づき所定の手続きを踏まえた上で、専門の産業廃棄物処理業者に委託して廃棄処理して下さい。
- ：容器は、中身を完全に使い切って、缶内部を完全に乾かしてから廃棄処理して下さい。中身を排水口や下水等に流したり、山林や河川、海などの場所への不法廃棄は絶対にしないで下さい。

【輸送上の注意】

- 陸上輸送** : [運搬容器] 消防法で規定する運搬容器（石油缶、ドラム缶、タンクローリー等）を用いて下さい。運搬容器の構造、最大容積は自治省令で定めるものを用いて下さい。
- [容器表示] 消防法の分類名称、品名、数量、注意事項（火気厳禁）など必要事項を表示して下さい。
- [積載方法] 危険物第1類、第6類、高圧ガス及び災害発生の恐れのある物品との混載は厳禁です。危険物を収納した運搬容器を積み重ねる場合は、自治省令で定める高さ以下にして下さい。運搬容器の外には、危険物の品名や数量等の表示をして積載して下さい。
- [その他] 車輛等によって運搬する場合、荷送り人は運送者に運搬注意書（イエローカード等）を交付して下さい。運搬に際しては容器の漏れのないことを確認し、落下、転倒、衝突を避けてくださいタンクローリー等の荷役を行う際には、車止め、ホース等の結合の確認を十分に行ってください。また、ホースの脱着をする場合は、ホース内部の残留物の処理を完全に行ってください。
- 海上輸送** : 船舶安全法等に準拠（手続き、表示、運搬容器、積載量など）して運搬を行ってください。
- 航空輸送** : 航空法等に準拠（手続き、表示、運搬容器、積載量など）して運搬を行ってください。

【適用法令】

- 消防法** : 危険物第4類第2石油類 危険等級Ⅲ
- 労働安全衛生法** : 施行令18条、別表第9 有機溶剤 第2種有機溶剤
- 大気汚染防止法** : 排出又は飛散を早急に抑制しなければならない物質（特定物質）（テトラクロロエチレン）
- P R T R 法** : 第一種指定化学物質 No. 262 テトラクロロエチレン CAS-No 127-18-4 含有率99%以上
- 船舶安全法** : 危規則第3条 危険物 告示別表第4（毒物）引火性液体類
- 航空法** : 施行規則第194条 危険物 告示別表第9条（毒物） 引火性液体類
- 海洋汚染防止法** : 油分排出規制
- 水質汚濁防止法** : 油分排出規制
- 下水道法** : 鉱油類排出規制

【その他の情報】

注 釈

本書の内容は、法規改正、新しい知見や情報入手、試験等により改訂されることがあります。記載内容は現時点で入手出来た資料や文献等の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、如何なる保証もなすものではありません。

全ての化学製品には、未知の危険性や有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。本書には通常危険性や有害性について記載してありますが、記載内容以外の危険性や有害性が存在しないことは、保障出来ません。記載事項は通常取扱いを対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全策をご実施の上、取扱い願います。

引用文献

化学工業日報社：13599の化学商品、化学品別 適用法規総覧、国際化学物質安全性カード（ICSC）日本語版第1集・第2集・第3集・第4集、化学物質管理促進法対象物質安全データ、労働安全衛生法MSDS 対象物質全データ、化学品法令集、新化学インデックス（2000年版）。丸善株式会社：危険物データブック[東京消防庁警防研究会監修]、ザックス有害物質データブック、環境化学物質要覧。オーム社：新版 溶剤ポケットブック[有機合成化学協会編]。株式会社成山堂書店：危険物船舶運送及び貯蔵規則並びに関係告示。中央法規出版株式会社：環境六法（平成4年版）[環境庁環境法令研究会編集]。株式会社廣川書店：中毒ハンドブック第11版。石油化学メーカー及び石油化学工業会、中央労働災害防止協会安全衛生情報センター、化学物質管理支援センター：製品安全データシート、セーフティデータシート。